

# 第3回 スポーツのジェンダー 構造を読む

「自分が生きていること」をサイエンスしてみませんか。フロアの皆さまとの双方向コミュニケーションで進行する参加・体験型のカフェです。

日時 平成23年7月20日(水) 18:30~20:30  
場所 文部科学省情報ひろばラウンジ(旧庁舎1階)

講師 **飯田貴子** (日本学術会議連携会員、帝塚山学院大学教授)

ファシリテーター **跡見順子** (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

ゲストコメンテーター **上野千鶴子** (日本学術会議会員・社会学者・NPO法人  
ウィメンズ・アクション・ネットワーク理事長)

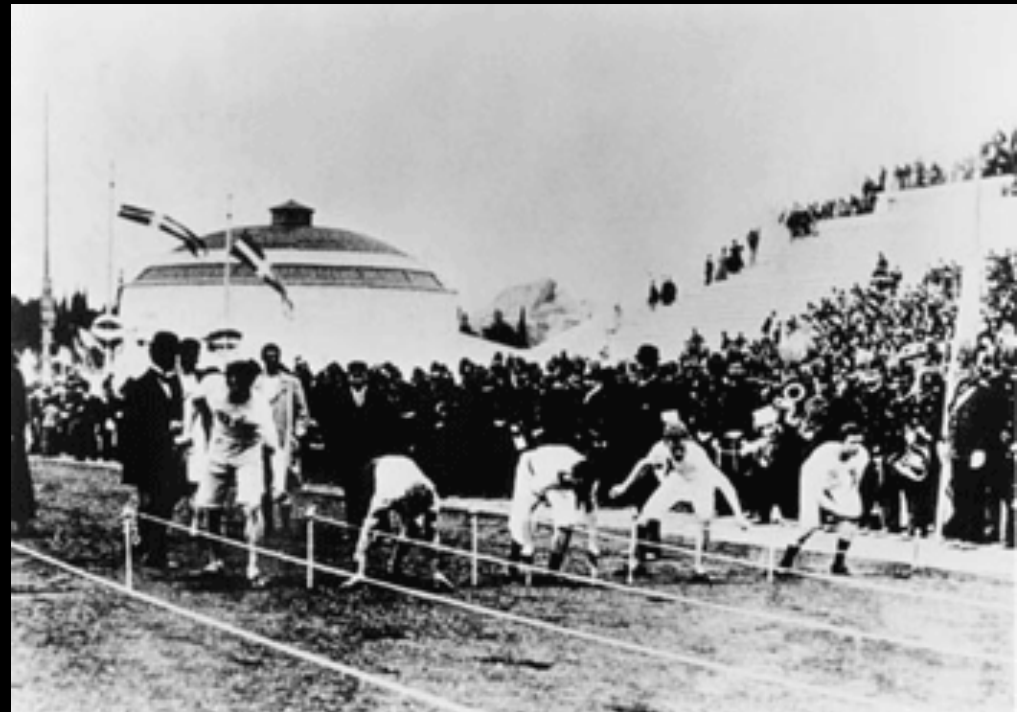
テーマ **スポーツのジェンダー構造を読む**

定員 30名(申込み:科学技術週間HP: <http://stvw.mext.go.jp/>から)

オリンピックやサッカー・ワールドカップに代表されるような近代スポーツは、19世紀イギリスで、若いエリート男性がするものとして誕生しました。その後、女性たちもあらゆるスポーツに参入してきましたが、「二流選手」のレッテルをぬぐうことができません。つまり、スポーツは、一流＝男性と二流＝女性を生産・再生産し続けているのです。さらに、スポーツにおいて女性が脚光をあびようとすれば、フィギュア・スケートや新体操、シンクロナイズド・スイミングにおいてであり、「女らしさ」を引き受けなければなりません。このような「スポーツのジェンダー構造」は、競技スポーツの世界だけでなく、学校体育やこどもの体力づくりにおいても根付いています。カフェでは、「元気な日本の新生」を担う女性と身体・運動・スポーツについてともに考えたいと思います。

# 近代オリンピック

- 第1回(1896) アテネ
- 14カ国 260人 8競技
- クーベルタン男爵
- 女人禁制



# 女性初参加 第2回



- パリ(1900)
- 19カ国 1066人  
16競技  
女性 19名テニス,ゴルフ



近代オリンピック100年



万国博覧会付属国際競技大会のパリ大会ではゴルフもお目見え。女性の参加はテニスとゴルフの2競技だけ。

# オリンピックへの挑戦

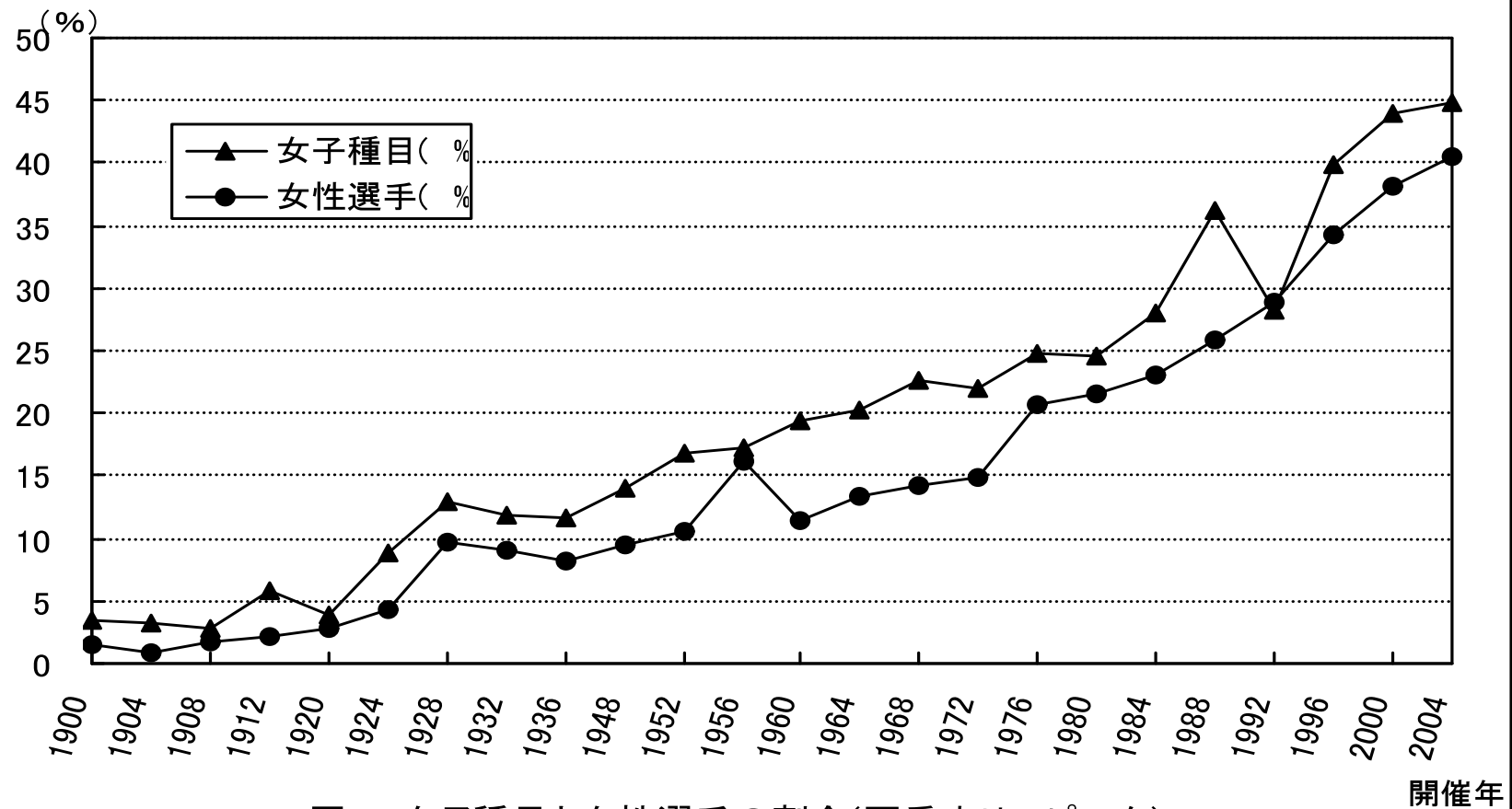


図1 女子種目と女性選手の割合(夏季オリンピック)

IOC(2001.2004) より作成,田原 (2006)

# オリンピックへの挑戦

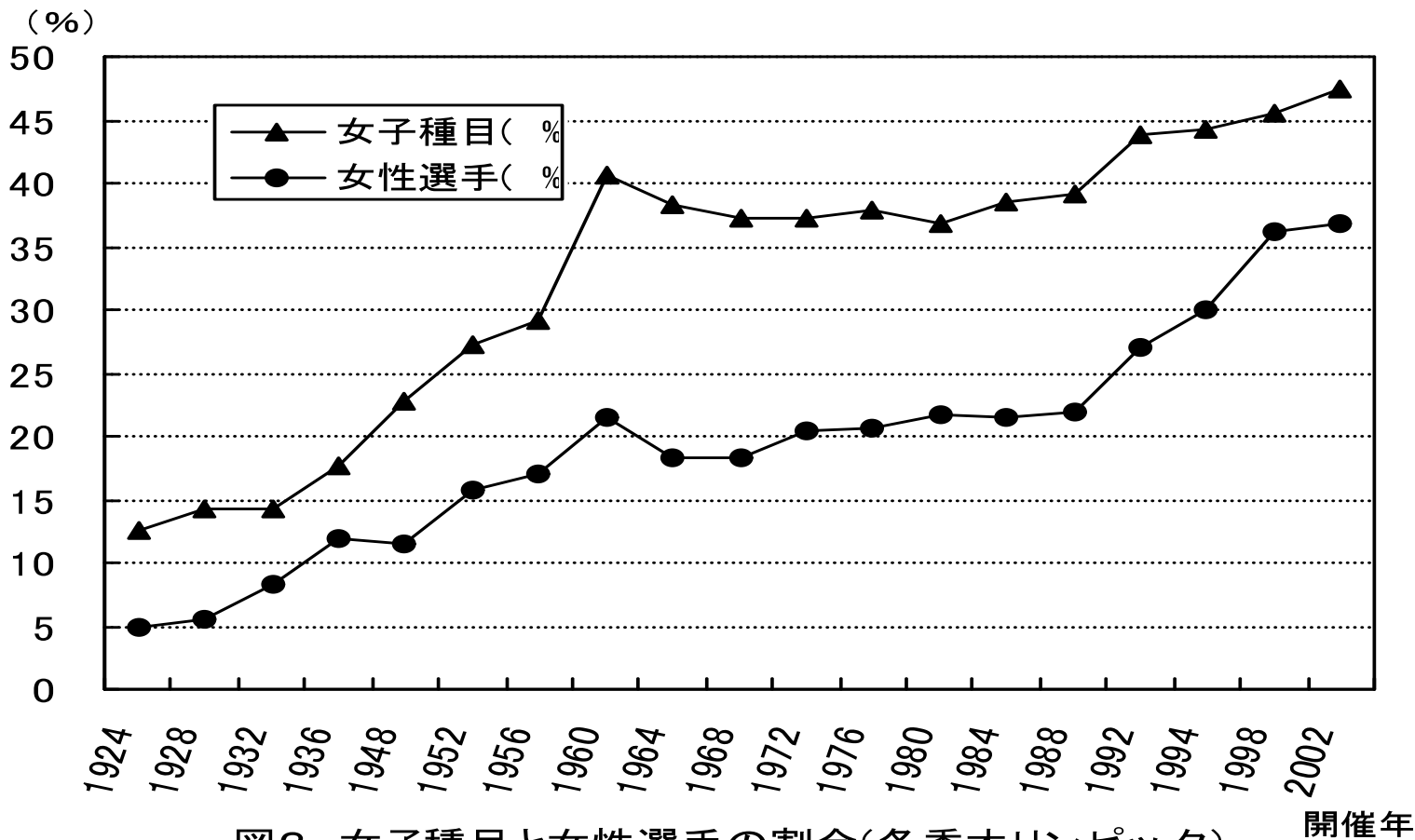


図2 女子種目と女性選手の割合(冬季オリンピック)

IOC(2001.2004) より作成,田原 (2006)